

発行：一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)

URL:<http://www.joskas.jp/>

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル(株式会社コングレ内) TEL:03-3263-5394 FAX:03-5216-5552

第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 学術集会・JOSKAS セミナー開催にあたって



会長 宗田 大 東京医科歯科大学名誉教授・災害医療センター院長

第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、学術集会およびJOSKASセミナーを6月14日から16日に福岡国際会議場・福岡サンパレスにて開催いたします。第10回の記念すべき本会を担当させていただくことは誠に光栄です。

本会のテーマを「知の開花・知の解放 JOSKAS 10年」としました。知は福岡太宰府天満宮で祀られている学問の神様菅原道真から得ました。天満天神として信仰の対象となった道真は東京医科歯科大学のシンボルマークである湯島天神の白梅に通じます。さらに知の鏡は関節鏡を連想できます。日本が臨床的に実用化した関節鏡は世界に広がり、ビデオシステムの実用化を経て、現在は内視鏡手術の基本機械に発展し、外科医に欠かせない道具になっています。38回の歴史を誇る日本関節鏡学会がJOSKASの原点です。

世界に広がった関節鏡視下手術の国際交流の場としてさらにJOSKASは発展させる必要があります。今回は欧米、アジア、オセアニアから19名の著名な関節外科医をお呼びしました。国際シンポジウムや講演で現在の世界を知り、日本との違い、共通した問題、今後の方向性など、英語でのディスカッションを通じて肌を感じていただきたいと思います。口演はすべて英文表記のパワーポイントを用いることにしました。賛否はあると思いますが、発表スライドを英文で表す習慣の動機づけになっていただければと思います。

最終的に1300を超える過去最多の抄録を受け取ることができました。同じ専門の会場が重ならないように口演会場は7つに絞り、評価の高かった演題を口演や紙ポスターとして採用しました。それぞれ優秀口演賞、ポスター賞を選出する予定です。Eポスターもスライドで発表形式にしております。

プログラムを概観しますと14日木曜、15日金曜は朝から晩まで複数の国際シンポジウムが並ぶようなプログラムとなっています。参加したいセッションがつねに2つ、3つ重なるような興味あるプログラムができたと思います。

また例年土曜日午前で終了していたJOSKASのプログラムを夕方まで延長し、土曜日の午後から翌日午前まで同時開催していたJOSKASセミナーを土曜日の朝から1日で終えるプログラムとし、豚膝を用いる半月板セミナーを初めて設置してみました。セミナーを早めに応募したところ1、2週間ではほとんどの枠が埋まってしまいました。

関節鏡によって開花した運動器外科学の発展を、国際的に解放＝発信する会としてJOSKASが今後ますます発展していくことを願ってやみません。学会は参加される先生方が創り上げる会です。積極的に参加することによって充実感と解放感が得られると思います。言葉の垣根を越えて熱く繰り広げられる議論の展開を実現しましょう。

多くの先生方のご参加をお待ちしております。

2017年度 JOSKAS フェローシップ報告記

それぞれの分野で日本をリードする先生方の情熱を感じました。

兵庫医科大学 整形外科 **神頭 諒**

この度、JOSKAS フェローシップにご選出頂き、東京医科歯科大学運動器外科学講座、JIN 整形外科スポーツクリニックにてそれぞれ1週間ずつ研修をさせて頂きました。東京医科歯科大学では、手術見学を中心に、外来・基礎実験・リサーチミーティング等多岐にわたって見学させて頂き、臨床・研究ともに普段と異なる視点から見識を深めることができました。また、JIN 整形外科スポーツクリニックでは外来診療を中心に見学させて頂き、問診、適切な診断と治療・リハビリテーションについて深く学ぶことが出来

ました。特に、トップアスリートにおける肉離れや groin pain についての診断から治療、一連の見学は印象深かったです。また、各施設の先生方と食事を共にし、様々な話を通じて診療に対する姿勢・情熱も学ぶことができ、大変有意義な研修となりました。最後に、古賀英之先生、仁賀定雄先生をはじめ研修先でお世話になった諸先生方、このような機会を与えて頂きました越智光夫理事長、吉矢晋一教授にこの場を借りて御礼申し上げます。



弘前大学整形外科で研修

行岡病院 整形外科 **橘 優太**

2017年度 JOSKAS Fellow として、弘前大学整形外科で1週間の研修をさせていただきました。石橋恭之教授の洗練された手術手技や外来診療を見学し、さらに数多くの論文執筆や留学など幅広く活躍されている同年代の先生方とも直接議論できました。所属大学以外の先生方の哲学を直接的に学び、意見交換ができる本研修は、自らの見識を広げる上で非常に有意義であったと考えます。こ

のような貴重な機会を与えていただきました越智光夫理事長、研修を受け入れてくださった弘前大学の先生方、史野根先生ならびに阪大スポーツクリニック各位、不在中のカバーをしてくださった行岡病院の先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



JOSKAS トラベリングフェローシップ参加報告

北海道大学 整形外科 **馬場 力哉**

2017年度 JOSKAS traveling fellow の機会を頂戴し、神戸大学整形外科 (2017/12/4-8)、広島大学整形外科 (2017/12/11-14) を訪問させていただきました。

神戸大学では、黒田良祐教授をはじめ、主にスポーツグループの先生方の大歓迎を頂き、手術見学、多分野にわたるスポーツ選手の診療見学、“JIMI 神戸” 体験、サバイバルな六甲登山、連日のお食事会など、盛り沢山の内容で研修させていただきました。

広島大学では、安達伸夫教授をはじめ、膝グループの先生方の熱

心なご指導のもと、手術・外来見学、一流プロ野球選手のメディカルチェック、教授とのお好み焼き屋さん巡り、連日のお食事会など、貴重な経験をさせていただきました。

上記2施設の訪問によって、多くの先生方の診療や研究に対する意識や技術の高さを体感できました。関係者の皆様、貴重な機会をどうもありがとうございました。



2017年度 JOSKAS フェローシップに参加して

国立病院機構弘前病院 整形外科 **佐々木 規博**

合計2週間にわたり船橋整形外科病院スポーツ医学・関節センターと昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院で研修させていただきました。どちらの病院もスポーツ障害や肩・肘関節疾患に関しては日本トップクラスであるため、投球障害やスポーツ障害を勉強したい私にとってはとても有意義でありました。施設によって患者数や手術数などに差はあるものの、両医療チームの患者さんに対する姿勢・情熱は素晴らしく、自分もこうなりたいというモチ

ベーションが駆り立てられる研修でした。最後にこのような機会をいただいた JOSKAS 理事長越智光夫先生をはじめとする関係者の皆様、受け入れを快諾していただいた両施設の先生方、またフェローへの参加を快諾していただいた弘前大学整形外科講座石橋教授をはじめ諸先生方に感謝いたします。



2017年 JOSKAS フェローシップ報告

岡山大学整形外科・ふじい整形外科 **藤井 政孝**

このたび、JOSKAS fellowship に選出頂き、北海道大学、神戸大学にて研修をさせて頂きました。両施設とも学会・論文等で素晴らしい手術方法や成績を発表されていて、実際にその洗練された技術を体感したことは非常に印象深く、感激しました。また、外来見学ではスポーツ選手に寄り添い、常にベストな治療法を考えていく姿勢に感銘を受けました。Fellowship 期間中は、多くの先生方と親睦

を深め、情報交換できたことも大変刺激的で有意義な時間でした。両施設で学んだ全てのごことが日常診療の糧となり、大変感謝しております。

このような大変貴重な機会を与えて下さいました JOSKAS 理事長越智光夫教授、並びに御推薦を賜りました尾崎敏文教授、御指導頂いた諸先生方には心より深謝致します。





深臀部症候群 (Deep gluteal syndrome 以下 DGS) は、坐骨神経の非椎間板性及び骨盤外性絞扼を原因とする臀部から腓脛部への疼痛を呈する症候群である¹⁾。後方股関節解剖と坐骨神経運動学の進歩により、坐骨神経が絞扼されるいくつかの場所を特定することが可能となった。それゆえ、「梨状筋症候群」の代わりに「深臀部症候群」の用語が、現在、坐骨神経の非椎間板性及び骨盤外絞扼を原因とする臀部の痛みとして認知されるようになってきた²⁾。

臀部の解剖学的な構造異常が臀部スペースの坐骨神経、後大腿皮神経、陰部神経、上殿神経、下殿神経などが絞扼されて症状を発する。痛みの原因を特定しないことは、患者を不安の淵に陥れ、痛みの知覚を増加させ、精神的コントロール、患者の要求、及び結果として QOL に多大な影響を及ぼす可能性があり、進行すると歩行困難や遅発性麻痺を呈する¹⁾。

原因としては、臀部スペース内の坐骨神経絞扼に関与する構造には、梨状筋、血管を包む線維性バンド (図 1)、臀筋群、ハムストリング、双子筋-内閉鎖筋複合体、血管の異常性、及びスペース占拠性病変が含まれる。外傷や複数回の手術も原因となることがある。

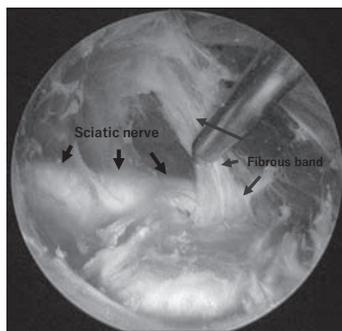


図 1: 臀部鏡視所見: 坐骨神経周囲の繊維性バンドが坐骨神経に癒着している。

〈症状〉

多くの場合、外傷歴と座位痛の症状、腰部または股関節の神経根痛、そして罹患下肢の知覚異常を有する。一部の症状は、臀部または後方大腿における鋭痛、灼熱間または麻痺のような、ハムストリング断裂のような筋力低下または股関節内病変のように腓脛部痛に類似することがある²⁾。

〈身体所見〉

座位梨状筋ストレッチテスト: 深臀部領域を検査者が触診するとき実施される受動屈曲、内転、内旋テスト

自動梨状筋テスト: 検査者が梨状筋を監視しながらの自動外転及び外旋テスト

坐骨大腿インピンジメントテスト (以下 IFI): 患者を反対側の側臥位にして、罹患股関節を受動伸展することで実施されるべきである。このテストの所見は、症状が、内転または中間位において再現されるが、伸展外転が症状を創出しない

ときに陽性

Hamstring Active Test: 自動ハムストリングテスト中に、膝 30 度屈曲において、筋力が、顕著に脆弱化し、痛みを示す一方で、膝屈曲 90 度において、筋力は正常化し、痛みが改善される¹⁾。坐骨部でハムストリング収縮により、坐骨神経及び後大腿皮神経の絞扼が惹起され疼痛が誘発される。

〈検査〉

神経生理学的検査; 針筋電図や神経伝導速度が有用

MRI: IFI の場合は坐骨と小転子の距離 (IFD: 17 ミリ以下が IFI と診断) 大腿方形筋のスペース (QFS 8 ミリ以下が IFI と診断) を測定する³⁾。

〈治療〉

関節内病変との鑑別あるいは、合併している場合には、関節内に局所麻酔とステロイドを注入する。基本的には保存療法が第一選択となる。

坐骨神経や後大腿皮神経周囲の筋膜を弛緩させるために、超音波ガイド下に生理食塩水を注入すると診断並びに軽症の場合は有効である。

〈手術〉

関節鏡視下に坐骨神経の周囲の繊維性組織や血管組織を切除する方法や、梨状筋をリリースする方法が行われている^{4) 5)}。(図 1) 約 80% の患者が満足のいく結果となっている。二ヶ所以上で絞扼されている DGS には観血的に手術が推奨されている⁶⁾。

- 1) Martin HD, Reddy M, Gomez-Hoyos J. Deep gluteal syndrome. *J Hip Preserv Surg.* 2015; 2: 99-107.
- 2) Hernando MF, Cerezal L, Perez-Carro L, Abascal F, Canga A. Deep gluteal syndrome: anatomy, imaging, and management of sciatic nerve entrapments in the subgluteal space. *Skeletal Radiol.* 2015; 44: 919-934.
- 3) Ohnishi Y, Suzuki H, Nakashima H, et al. Radiologic Correlation Between the Ischiofemoral Space and Morphologic Characteristics of the Hip in Hips With Symptoms of Dysplasia. *AJR Am J Roentgenol.* 2018; 210: 608-614.
- 4) Martin HD, Palmer IJ, Hatem M. Monopolar radiofrequency use in deep gluteal space endoscopy: sciatic nerve safety and fluid temperature. *Arthroscopy.* 2014; 30: 60-64.
- 5) Martin HD, Shears SA, Johnson JC, Smathers AM, Palmer IJ. The endoscopic treatment of sciatic nerve entrapment/deep gluteal syndrome. *Arthroscopy.* 2011; 27: 172-181.
- 6) Kay J, de Sa D, Morrison L, et al. Surgical Management of Deep Gluteal Syndrome Causing Sciatic Nerve Entrapment: A Systematic Review. *Arthroscopy.* 2017; 33: 2263-2278 e2261.

編集後記

ニュースレター委員会 高橋 成夫 三菱名古屋病院 (7/1 より重工記念病院に変更)

先日 4 年ぶりに ACL 再建した患者来院。彼女はもともと世界的に有名な二胡奏者。4 年の間に、中国では主演をはる女優となり、今は声楽を学ぶために、ニューヨークの有名な音楽院で勉強中という。彼女のマルチタレントぶりに未来の 4D はとてつもない。思わず "Wow"。今回の

JOSKAS は 10 回になり、演題は 1300。大きな学会に発展している。若きドクターの入会が多く、将来の学会の 4D は前途洋々かと。今回の学会でも、思わず "Wow" と叫びたくなる演題を期待してやまない。

